

THE BLUE ECONOMY SYMPOSIUM

ゼリ・ジャパン ブルーエコノミーシンポジウム

日時

平成29年11月22日(水)

13:30～17:30 (12:45受付開始)

場所

国連大学

3階 ウ・タント国際会議場

(東京都渋谷区神宮前5-53-70)

1994年に、グンター・パウリ氏により、ZERIの運動が日本の国連大学からスタートしました。

ZERIとは『ゼロ・エミッション・リサーチ・イニシアチブ(Zero Emissions Research Initiatives)』の頭文字で、自然の循環に習いながら産業連関等によって資源を有効・最大限に活用し、廃棄物ゼロの社会を目指す運動です。日本では「ゼロ・エミッション」が社会用語として定着し、2001年にZERIジャパンが設立され、普及啓蒙活動や各種事業を行ってきました。

ZERIでは、イニシアチブ（構想・試み）の段階から、自然生態系から着想された経済モデルである「ブルーエコノミー」に着目してきました。

「ブルーエコノミー」は「成長の限界」を克服し、「ゼロ・エミッション」を実現する、すべての人々が待ち望んでいたサステナブルな21世紀の経済と環境のビジョンです。



ゼリ創設者 グンターパウリ氏

主催： 特定非営利活動法人 ゼリ・ジャパン
共催： サラヤ株式会社
定員： 300人
参加申込： 申込専用サイト、電子メール、およびFAXにて受け付けいたします。

申込専用サイト：<http://www.zeri.jp/ivent/index02.html>

電子メール：info@zeri.jp

FAX： 03-5939-7400

申込期限： 11月17日(金) ただし定員になり次第締め切らせていただきます。

資料代： お一人様1,000円を参加申込後にお支払いいただきます。学生無料(学生証をお持ちください)。



主催者ご挨拶

ゼリ・ジャパンは自然にならうことを原則にして、産業とその連環を考え、持続可能に産業連環をデザインし、廃棄物をつくらない「ゼロ・エミッション」の考え方の活動を1994年から続けています。

2015年9月の国連サミットで「持続可能な開発目標（SDGs）」が採択された今、ゼリ・ジャパンはイニシアチブの段階から、スケールを伴った持続可能なビジネスである「ブルーエコノミー」を実現する段階に突入しています。環境と経済が対立した過去をのりこえて、地球生態系とともにある経済を実現することが21世紀のミッションです。

今回のシンポジウムでは「ブルーエコノミー思想からのサステナブル社会の実現」をテーマに、世界の最新事例や、未来のビジョンを紹介し、ブルーエコノミーが構想する持続可能な社会への道筋を、参加者の方々とともに、前向きに、熱く共有いたします。

特定非営利活動法人 ゼリ・ジャパン 理事長 更家 悠介

後援

環境省、経済産業省、東京都、跡見学園女子大学、一般財団法人 地球・人間環境フォーラム、NPO法人サステナビリティ日本フォーラム、グリーン購入ネットワーク、国際グリーン購入ネットワーク、北海道グリーン購入ネットワーク、みやぎグリーン購入ネットワーク、埼玉グリーン購入ネットワーク、横浜グリーン購入ネットワーク、大阪グリーン購入ネットワーク、九州グリーン購入ネットワーク、(株)イースクエア、大和ハウス工業(株)（過去実績から申請予定）

企画協力

ダイヤモンド社／ DMN（ダイヤモンド・デザインマネジメント・ネットワーク）機構

特別協力

東京サラヤ(株)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



プログラム

司会

一般社団法人エシカル協会 代表理事 末吉 里花

一般社団法人エシカル協会代表理事。慶應義塾大学総合政策学部卒業。TBS系『世界ふしぎ発見!』のミステリーハンターとして世界各地を旅した経験を持つ。また司会や、レポーター、モデレーターもこなす。フェアトレードやエシカルを中心に活動を展開し、日本全国の企業や高校、大学などで講演、各地のイベントでトークショーを行う。著書に『祈る子どもたち』（太田出版）。新刊『はじめてのエシカル』（山川出版社）。消費者庁「倫理的消費」調査研究会委員（2015.5～2017.3）、東京都消費生活対策審議会委員、日本エシカル推進協議会理事、NPO法人FTSN(Fair Trade Students Network)関東顧問、1% for the Planet アンバサダー、ピーブルツリーアンバサダー。 <http://ethicaljapan.org>



開会挨拶

13:30

特定非営利活動法人 ゼリ・ジャパン 理事長 更家 悠介

1951年生まれ。1974年大阪大学工学部卒業。1975年カリフォルニア大学バークレー校工学部衛生工学科修士課程修了。1976年サライ株式会社入社。工場長を経て1998年代表取締役社長に就任、現在に至る。日本青年会議所会頭、(財)地球市民財団理事長などを歴任。(特活)エコデザインネットワーク副理事長、(特活)ゼリ・ジャパン理事長、大阪商工会議所常議員、関西経済同友会常任幹事、(公社)日本食品衛生協会理事、ボルネオ保全トラスト理事、(公社)日本WHO協会副理事長などを務める。著書に、『これからのビジネスは「きれいごと」の実践でうまくいく』（東洋経済新報社 平成28年9月発行）など。モットーは、あらゆる差別や偏見を超えて、環境や生物多様性など地球的価値を共有できる「地球市民の時代」。



基調講演

13:35

Gunter Pauli Founder, ZERI ゼリ創設者 グンター・パウリ

「経済を変革するイノベーション」 ゼロ・エミッション先駆的な取組みの25年」

The Global ZERI(Zero Emissions Research and Initiatives) Network創設者・代表者。1956年ベルギー生まれ。聖イグナチオ大学経済学部卒業。91年廃棄物をつくらないゼロ・エミッションの考え方を導入した石鹼工場をベルギーに建設。その活動が世界の注目を集め、94年には国連大学学長顧問としてゼロ・エミッションを主導し、構想の実現に尽力。96年、国連開発計画(UNDP)とスイス政府の出資でThe Global ZERI Networkの前身であるZERI財団をジュネーブに設立。目的は「循環型社会」の実現。94～97年、国連大学学長顧問。世界経済フォーラムにおいて「21世紀のリーダー」の一人に選出される。2010年、「ブルーエコノミー」を発表し、世界各国の政府、研究機関、市民グループなどと連携し、イノベーション事例をデータベース化しながら、ビジネス創造の実践活動を展開している。ブータンでは政府顧問をつとめ、「ブルーエコノミー」をGNH(国民総幸福量)の具体的な経済政策として導入。さらに、世界の子どものために、環境と経済のあり方を考えさせる教育にも注力している。



講演

14:45

Suat Topsu Professor, The University of Versailles ヴェルサイユ大学 教授 スアット・トップス

「イルミネーションを超えた新しい革命：LED通信」

科学者、戦略者、物理博士、およびQuantum Physics & Engineeringの研究者。光原子時計、レーザー、一般相対性理論、ナノテクノロジー、そして最近では、光無線電気通信の応用を専門としている。博士号を取得し特別研究員となった後、パリサクレー大学で「准教授」(講師)の学職に就く。2006年にフランスにおける科学の最高評価である「フランス国家博士」を取得し、2008年に教授となる。研究プロジェクトでは、新世代の原子時計、ガン治療向けのナノテクノロジー、光無線通信またはLiFiに取り組む。LiFi技術の研究は2005年から行う。2008年には、フランスの自動車メーカーと協同で、他の車やインフラにデータを送信できる世界初のヘッドライトを開発。2010年に、IEEE 802委員会を通じてLiFi通信の標準化活動に参加。2012年には、この技術を製品に転換し、世に出すためにオレドコムを設立する。現在オレドコムは、国際科学界からLiFi技術のリーディングカンパニーとして認められている。



15:05

Hans Stier Founder & CEO, Bonaverde Coffee AG ボナヴェルデ社 CEO ハンス・スティアー

「ドイツ ボナヴェルデ社 コーヒー市場の革命」

ボナヴェルデ社の創設者およびCEO。この7年間、20分以内に1杯分の生豆からコーヒーを抽出する、世界初の焙煎-挽き-淹れをすべて行うコーヒーメーカー「ボナヴェルデ・ベルリン」の考案と販売に注力。情熱的なイノベーターであり、変化をもたらすスティアー氏は、農場でコーヒー豆を梱包し、消費者の玄関まで届けるに至るまで、焙煎していないコーヒー豆から1杯のコーヒーを提供する世界初のフルサービス・サプライチェーンの開発も手掛ける。ボナヴェルデ社の創設者およびCEOとして、コーヒーの世界的な認識、取引方法、楽しみ方に変革をもたらすことを先頭に立って推し進めている。世界初の焙煎-挽き-淹れをすべて行うコーヒーメーカーの導入により、バリューチェーン再編の一方、農家は自立することができ、消費者は最も公正かつ新鮮なコーヒーを自宅で体験できる。ESCP欧州で欧州MBA、そしてシドニー大学で法学修士を取得。ボナヴェルデ社の本社があるドイツ、ベルリンで妻と2人の息子と暮らす。



プログラム

講演

15:25

Marlene Sandberg CEO, Naty AB ナティ社 CEO マーリーン・サンドベルグ

「スウェーデンナティ社 おむつ市場の変革」

1985年、ウプサラ大学（スウェーデン）、法学士号取得。1985～1988年、Björn Ugander法律事務所、アシスタント・ソリシター。1988～1994年、Lars I Wikström法律事務所、副ソリシター兼パートナー。1994年から、ナティ社の創業者およびCEOを務める。ナティ社にて、スカンジナビアの森林の持続可能な方法で育てられたバルブから製造された堆肥化できるエコオムツを、世界各国で販売展開する。



15:45

Karlson Charlie Hargroves Professor, The University of Adelaide

アデレード大学 教授 カールソン・チャーリー・ハーグロヴェス

「新刊 “ブルーエコノミーの原則と実践”」

献身的で情熱的、かつ協調的に行動する研究員およびコンサルタントであり、世界の持続可能な変遷に寄与することに重きを置く。この15年間、世界の第一線の持続可能な開発の専門家と多く協力しながら、執筆、コンサルティング、講演を通じて、この分野に大きく貢献。チームのリーダーとなって5冊の国際的著書（現時点で、6か国語で8万5,000部以上の売上）、数多くの章や論文を共同で執筆し、世界中で50以上の基調講演および客員講演を行う。2006年からローマクラブのメンバーとなり、国際連合地域開発センターの専門アドバイザーを務める。炭素構造調整の博士号を取得しており、カーティン大学Sustainability Policy(CUSP) Instituteの上席研究員を務める。



16:05

京都造形芸術大学 教授 竹村 真一

「地球目線で未来をデザインする」

文化人類学者。京都造形芸術大学教授。Earth Literacy Program 代表。東京大学大学院文化人類学博士課程修了。20代には世界約70カ国を踏破。地球時代の新たな「人間学」を提起しつつ、世界初のデジタル地球儀「触れる地球」の企画・開発など、ITを駆使した地球環境問題への独自の取り組みを進める。96年に制作したウェブ作品Sensoriumは電子アートの登竜門アリス・エレクトロニカでグランプリを受賞。その後、「触れる地球」（05年グッドデザイン賞・金賞、中型普及版が2013年キッズデザイン最優秀賞・内閣総理大臣賞受賞）や「100万人のキャンドルナイト」、ユビキタス携帯ナビ「どこでも博物館」（05年国連情報社会サミット日本最優秀賞）、洞爺湖サミットIMC「地球茶室」。(08年)、六本木デザインサイト21-21「Water」展（07年）などをプロデュース。愛・地球博（05年）では、アフガニスタンやスリランカの子どもたちとリアルタイム対話を試みる「地球回廊」を企画運営。06年4月から、環境セミナー「地球大学」を丸の内内で主宰。J-Waveのナビゲーターもつとめる。2011年3月11日の東日本大震災後、政府の「復興構想会議」検討部会専門委員に就任。また2012年より国連UNISDR（国連防災機構）のコミュニケーション・アドバイザー。「国連防災白書2013」のコンセプト・デザインやそのデジタル版“GfT”の企画・制作に携わる。触れる地球とそのタブレット版“GfT”は、国連のGlobal Risk Communication Platformに認定される。



16:25

一般社団法人 日本エンカル推進協議会 会長 山本 良一

「日本におけるエンカル消費の推進」

1969年、東京大学工学部冶金学科卒業。74年、同大学院工学系研究科博士課程修了、工学博士。マックスプランク金属研究所客員研究員。80年、同助教授（工学部金属材料学科）。89年同先端科学技術研究センター教授。92年、同生産技術研究所教授、国際産学共同研究センター長。2010年、東京大学名誉教授。11年4月、東京都市大学環境学部特任教授（～16年3月末）、国際基督教大学客員教授。13年国際グリーン購入ネットワーク名誉会長。ほかに環境配慮契約法委員会座長、LCA日本フォーラム会長、エコプロダクツ展実行委員長、日本エンカル推進協議会代表、消費者庁「倫理的消費」調査研究会座長、中国の北京大学、精華大学など31大学の客員教授を歴任、現在に至る。



パネル討論

16:45

「ブルーエコノミー思想からの持続可能な社会の実現」

パネリスト： グンター・パウリ、山本 良一

モデレーター： 更家 悠介



※ 講師、プログラム、登壇時刻は変更になる場合がございます。